

名古屋大学大学院生命農学研究科
 名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻および
 名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻特任助教公募要領

1	募 集 件 名	特任助教（コーディネーター）の公募	
2	所 属	大学院生命農学研究科国際交流推進室	
3	募 集 内 容	<p>[選考方針（募集の背景、プログラムの説明）]</p> <p>名古屋大学大学院生命農学研究科は、生命科学の基盤の拡充、生物機能・生物資源の高度利用、生命共生環境の創出・保全、および持続的生物生産と先端生命科学の技術開発を通して環境に調和した人類の発展を目指す総合的な学問分野として「生命農学」を位置づけ、創造的な研究活動によって真理を探究し、生命農学に関して世界屈指の知的資産形成・蓄積と継承に貢献することを使命としています。</p> <p>「名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻」および「名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻」は、名古屋大学大学院生命農学研究科とタイ・カセサート大学およびオーストラリア・西オーストラリア大学との共同研究、学術交流協定を基盤とし、それぞれの大学の博士後期課程ジョイント・ディグリー・プログラムを遂行するために2018年4月および2019年4月に設置されました。両専攻は、相手大学の学術環境、文化、教育体制の下で学生を教育することにより、高い研究能力とともに国際的俯瞰力、企画力、学術展開力や課題解決能力に優れた博士人材を育成することを目的としています。</p> <p>今回公募する特任助教には、博士または修士の学位を有し（2025年3月までの学位取得見込みを含む）、農学あるいはそれに関連した分野における研究経験、または、海外大学との学術交流や学生交流プログラム等に関わる経験を有し、両専攻のジョイント・ディグリー・プログラムにおける教育および運営推進においてコーディネーターとして活躍が期待できる方が求められます。さらに、職務遂行に十分な英語能力および日本語によるコミュニケーション能力を有するとともに、両専攻での活動に熱意を持って携わり、本研究科のさらなる発展に貢献できる、日本国籍以外の国籍を有する人物が望まれます。</p> <p>[職務内容（業務内容、担当科目等）]</p> <p>（雇入れ直後）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻および名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻の運営と学生教育および学生支援（コーディネーター業務） ・生命農学研究科の国際化推進プログラムの支援 <p>（変更の範囲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海国立大学機構が指定する業務 <p>[勤務地]</p> <p>（雇入れ直後）愛知県名古屋市長種区不老町（名古屋大学東山キャンパス）</p> <p>（変更の範囲）東海国立大学機構が指定する就業場所</p> <p>[募集人員] 特任助教・1名</p> <p>[着任時期] 2025年4月1日</p>	
4	募 集 研 究 分 野	大分類	ライフサイエンス、農学、その他
		小分類	
5	勤 務 形 態	<p>常勤（任期付）</p> <p>契約期間：期間の定めあり（採用日から2026年3月31日まで）</p> <p>契約の更新可能性：有（契約期間満了時の業務量、勤務成績、態度、能力、法人の経営状況、従事している業務の進捗状況・プロジェクトの継続の有無、予算状況等により更新の有無を判断する）</p> <p>通算契約期間：最長2028年3月31日まで</p>	
6	応 募 資 格	<p>[必要な特定分野の資格・条件（学位などを含む）・専門性等の詳細]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士または修士の学位を有することあるいは2025年3月までに取得見込みであ 	

		<p>ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国籍以外の国籍を有すること ・学生、教職員、その他関係者とのコミュニケーション能力があること ・英語による職務遂行および日本語による日常のコミュニケーションが可能であること ・他大学等との国際的な学術交流、学生交流プログラム等に関わった経験を有することが望ましい
7	待遇	<p>[採用後の待遇（給与、勤務時間、休日、雇用期間、保険等）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海国立大学機構職員就業規則の定めるところによる。 https://education.joureikun.jp/thers_ac/act/frame/frame110010928.htm ・給与は東海国立大学機構名古屋大学年俸制適用職員給与規程において定める年俸制とする。 https://education.joureikun.jp/thers_ac/act/frame/frame110000191.htm ・専門業務型裁量労働制により、1日7時間45分働いたものとみなされます。
8	応募期間	2024年9月12日～2024年11月15日（日本時間）
9	応募・選考結果通知連絡先	<p>[応募方法（提出書類の送付先）]</p> <p>[必要書類] ※英語または日本語で作成して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応募する旨を明記した書類（応募者の連絡先、電話番号、電子メールアドレスなどを含む） 2. 履歴書 3. 業務経歴書 (https://nuss.nagoya-u.ac.jp/s/7JgkwwLDGxNrNyk から様式をダウンロードして作成すること。) 4. 研究業績リスト（様式任意：原著論文、総説・著書、特許、その他に分類し、論文には査読の有無を明記すること） 5. 着任後の抱負（A4判1枚程度） 6. その他（教育研究活動（特に、海外の大学との共同研究、学術交流、学生交流プログラム等に関わる活動）、外部資金の獲得状況、社会貢献などで選考の参考となる事項） 7. 類型該当性の自己申告書と類型該当性判断のフローチャート (https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/general/fefta.html から様式をダウンロードして作成すること。「10. その他」欄を参照のこと。) 8. 応募者について問い合わせ可能な方2名の氏名と連絡先（電話番号、e-mail アドレス） <ul style="list-style-type: none"> ・上記の書類1～8を1つのPDFファイルにまとめ、以下の「書類の送付先アドレス」にメール添付で応募期間内（必着）に送信してください。 ・メールの件名は「JDP 特任助教応募書類(氏名)」としてください。 ・ファイルサイズは全体で 50 MB を超えないようにしてください。やむをえず 50 MB を越えてしまう場合は、選考委員長までお問い合わせください。 ・応募締め切りの1週間後までに応募書類を受領した旨の連絡（電子メール）がない場合には、選考委員長までお問い合わせください。 <p>書類の送付先アドレス(電子メール)： jdp2024[at]agr.nagoya-u.ac.jp ※メールアドレスの[at]を@に置き換えてください。</p> <p>[問合せ先] 名古屋大学大学院生命農学研究科 「名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻および名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻」特任助教選考委員会 委員長 大蔵 聡 E-mail： saohkura[at]agr.nagoya-u.ac.jp ※メールアドレスの[at]を@に置き換えてください。 ※問い合わせ時のメールの件名は「JDP 特任助教公募」としてください。</p>

		<p>[選考内容（選考方法、採否の決定）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選考委員会で審議選考し、研究科教授会の議を経て、候補者が決定されます。 ・選考に際し面接やセミナーを実施することがあります（対面またはオンライン、応相談）。 ※面接・セミナーのために旅費及び宿泊費が生ずる場合は自己負担とします。 ・採否の結果については、原則、電子メールで連絡します。
10	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・本募集では、研究業績、教育業績、社会的貢献、人物等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。 ※名古屋大学の取り組みについては下記をご覧ください。 http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/ ・2021年11月「外国為替及び外国貿易法（外為法）」に基づく「みなし輸出」における管理対象の明確化に伴い、大学・研究機関における教職員への機微技術の提供の一部が外為法の管理対象となりました。これに伴い、本公募に応募の際、「類型該当判断のフローチャート」に基づく「類型該当性の自己申告書」の提出が必要となります。また、採用時には「誓約書」の提出が必要となります。 ・提出された書類については、本選考以外の目的には使用しません。応募書類は、本選考委員会が責任を持って処分し、返却しません。